

「認知症患者の退院前訪問指導内容の分析」

分担研究者 村田 美希

熊本大学医学部附属病院 神経精神科 作業療法士

研究要旨：

目的：認知症患者の急増が見込まれる中、在宅で生活する患者の安全や QOL を確保することは重要な課題である。当院で実施している退院前訪問の指導内容を分析することにより、認知症患者が在宅で療養する際の留意点を明らかにする。

対象：対象は、平成24年4月～平成27年11月。熊本大学医学部附属病院に入院中で、在宅復帰を目標として退院前訪問を実施された認知症患者。性別は男性13例、女性36例。平均年齢は73.4±8.8歳。平均 MMSE 得点は20.9±4.9点だった。

方法：多職種が2人が1組となり、実際の生活場面を確認・評価・指導することを目的として訪問する。今回は、疾患別 (AD、DLB)、認知機能障害の程度 (MMSE24点以上、23点以下)、家庭状況 (独居、同居) の各項目において特性を抽出し、更に、各項目を12項目に分類した指導内容と比較検討した。

結果：疾患別では、MMSE の平均値において DLB の得点が有意に高かった。また、指導内容別では、ADL 指導の項目においては、DLB に対して有意に多い傾向であった。認知機能障害の程度では、指導内容別に比較すると、23点以下の群に対して、家族への項目において有意に多く指導していた。

家庭状況では、平均年齢は独居群において有意に高い傾向だった。MMSE の得点では、独居群において優位に高い傾向であった。指導内容別では、服薬管理の項目においては、独居群に対して有意に多かった。サービス導入の項目においては、同居群に対して有意に多い傾向であった。

結論：訪問時の指導内容には、疾患の特性や、認知機能障害の程度、家族形態の背景を考慮した内容であることが分かった。今後の課題としては、家族の見守りが乏しい生活環境の独居者に対する服薬管理への対策や、利用できる社会資源の補填を図ることが重要である。

A. 研究目的

認知症患者の急増が見込まれる中、在宅で生活する患者の安全や QOL を確保することは重要な課題である。厚生労働省によると、退院前訪問とは「入院患者の円滑な退院のため、入院中、又は退院日に患家を訪問し、患者の病状、患家の家屋構造、介護力等を考慮しながら、患者またはその家族等に対して、退院後の在宅での療養上必要と考えられるの指導を行った場合」とされている。

当院でも、平成24年4月より認知症の精査・治療目的で短期入院した認知症患者に対して、生活機能評価の一環として多職種が連携し、訪問指導を実施している。

前年度は、認知症患者が在宅で療養する際の留意点を明らかにすることを目的に、指導内容の分析を行った。今年度は、疾患別、MMSE24点以上と23点以下、独居と同居、それぞれの指導内容の差について分析したので報告したい。

B. 研究方法

【対象】

平成24年4月～平成27年11月の期間に、認知症の精査・治療目的で熊本大学附属病院神経精神科に入院した患者のうち、退院後は在宅生活を予定し、多職種からの情報より訪問指導の必要性があると判断された49例である。性別は男性13例、女性36例。平均年齢は73.4±8.8歳。平均 MMSE 得点は20.9±4.9点だった。背景疾患は、アルツハイマー型認知症 (Alzheimer's disease: AD): 35例、レビー小体型認知症 (Dementia with Lewy Bodies: DLB): 14例。(その他の認知症系の疾患においては、データの数が少なくばらつきが大きいため除外とした。)

【分析方法】

訪問時に必要と思われる2職種を選択し、2名が1組になって実施。(医師・認知症看護認定看護師・精神保健福祉士・作業療法士) 実際の生活場面を確認・評価した後、指導を行う。指導内容は基本動作、ADL、IADL、服薬管理、火の元の管理、身

体管理、住環境、生活環境、サービス導入、余暇活動、多職種連携、家族の12項目に分類した。

指導内容について 疾患別(AD、DLB)、認知機能障害の程度(MMSE24点以上、23点以下)、家族形態(独居、同居)の各項目において特性を抽出し比較検討した。(解析方法:Fisherの正確確率検定)

(倫理面への配慮)

本研究では個人情報情報を消去し、すべて記号・数値に置き換え、万一情報流出が起こった場合にも、個人が特定されない形でのみ、処理をおこなう配慮をした。

C. 研究結果

疾患別

平均年齢はADで72.1±9.5歳。DLBでは76.9±5.5歳であった。MMSEの平均値はADで19.9±4.8点。DLBでは23.4±4.4点であった。家庭状況(同居:独居)の比率は、ADでは(19:16)。DLBでは(8:6)であった。男女比は、ADで(8:27)、DLBでは(5:9)であった。結果、MMSEの平均値において、DLBの方が有意に高かった。

また、指導内容別に比較すると、ADL指導の項目においては、DLBに対して有意に高い傾向であった(表1,図1)。

認知機能障害の程度

平均年齢は23点以下の群で73.1±8.5歳。24点以上の群では72.3±7.8歳であった。疾患別(AD:DLB)は、23点以下の群で(21:6)。24点以上の群では(5:8)であった。家族形態(同居:独居)の比率は、23点以下の群で(18:9)。24点以上の群では(5:8)であった。男女比は、23点以下の群で(8:19)。24点以上の群では(2:11)であった。特に有意差はみられなかった。

また、指導内容別に比較すると、23点以下の群に対して、家族指導の項目において有意に高い結果であった(表2,図2)。

家族形態

平均年齢は同居群で70.5±9.3歳。独居群で77.0±6.7歳であった。疾患別(AD:DLB)は、同居群で(19:8)。独居群では(16:6)であった。MMSEの平均値は、同居群で19.3±4.7点。独居群では23.1±4.3点であった。男女比は、同居群で(11:16)。独居群では(2:20)であった。結果、平均年齢は、独居群において有意に高い傾向だった。また、MMSEの得点では、独居群において有意に高い傾向であった。

指導内容別に比較すると、独居群に対して服薬管理の項目が有意に高かった。同居群に対しては、サービス導入の項目において有意に高い傾向だった(表3,図3)。

D. 考察

DLBが、ADよりもADL指導において有意に高い傾向であった。パーキンソンズなど、身体症状を呈しやすいという疾患特性があるため、安全面へ配慮した指導内容の必要性が高いことが推測される。

認知機能障害の程度別では、MMSEの低下群において、家族への指導が有意に高かった。認知機能低下群においては、家族の支援が必要であると考える。

家族形態別では、服薬管理とサービス利用において有意差がみられた。今回は検証されていないが、独居群の方が介護度が低いためにサービスが導入されにくいのではないかと推察される。また、見守りのない独居群においては、服薬管理に対する指導が有意に高く、今後の重要な課題であると思われる。

E. 結論

退院前訪問は、多職種がチームとなって、患者のアセスメントをし、さらに実際の生活場面を把握した上で評価・指導を行うことができる介入手段の一つである。訪問時の指導内容には、疾患の特性や、認知機能の重症度、家庭状況の背景を考慮した内容であることが分かった。今後の課題としては、家族の見守りが乏しい生活環境の独居者に対する服薬管理への対策や、利用できる社会資源の補填を図ることが重要である。

今回は対象者数が少なく、介護度や生活能力などの調査までは行うことが困難であり、対象者の統制が不十分であった。今後、具体的に必要とされる指導内容を述べるには、対象者数の拡充が必要であると思われる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1)村田 美希、堀田 牧、小山 明日香、橋本 衛、池田 学・認知症患者への退院前訪問指導内容の分析、第50回日本作業療法学会・北海道・9月10日、2016、ポスター発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録
なし

3. その他
なし

表1. 疾患別の特性

	AD (n = 35)	DLB (n = 14)	P値
平均年齢±SD	72.1±9.5歳	76.9±5.5歳	n.s
MMSEの平均値 ±SD	19.9±4.8点	23.4±4.4点	P<0.05
同居：独居	19：16	8：6	n.s
男：女	8：27	5：9	n.s

図1. 疾患別における指導内容の比較

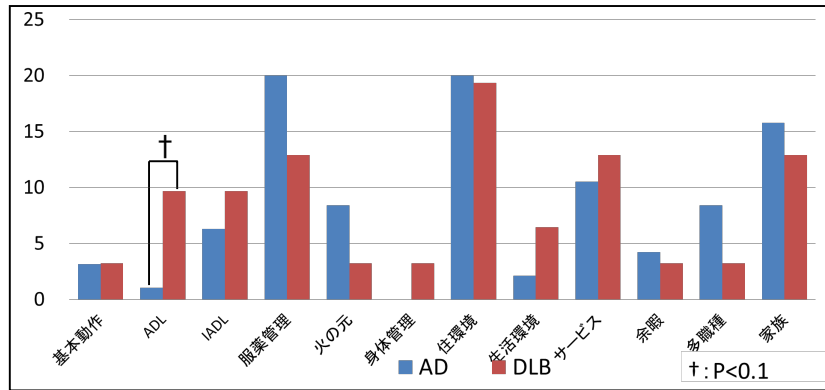


表2. 認知機能別の特性

	23点以下 (n = 27)	24点以上 (n = 13)	P値
平均年齢±SD	73.4±8.5歳	72.3±7.8歳	n.s
AD：DLB	21：6	8：5	n.s
同居：独居	18：9	5：8	n.s
男：女	8：19	2：11	n.s

図2. 認知機能別における指導内容の比較

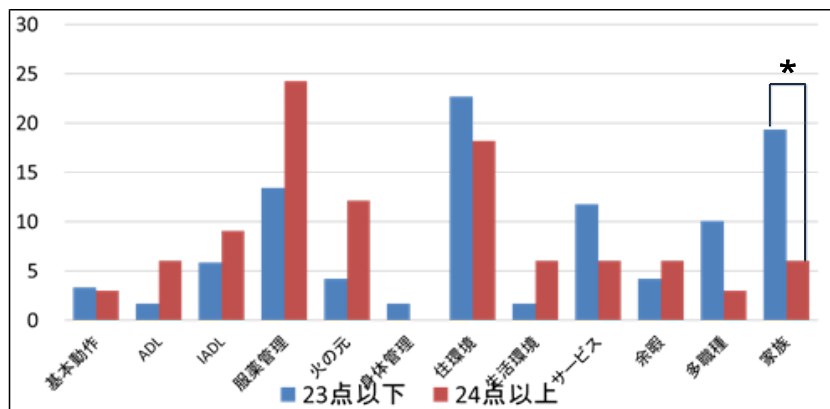


表3. 家族形態別の特性

	同居 (n = 27)	独居 (n = 22)	P値
平均年齢±SD	70.5±9.3歳	77.0±6.7歳	P<0.01
AD:DLB	19 : 8	16 : 6	n.s
MMSEの平均値 ±SD	19.3±4.7点	23.1±4.3点	P<0.01
男 : 女	11 : 16	2 : 20	n.s

図3. 家族形態別における指導内容の比較

